

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30トン台で推移しました。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成14年は19万2千トン、平成15年は21万4千トンでした。

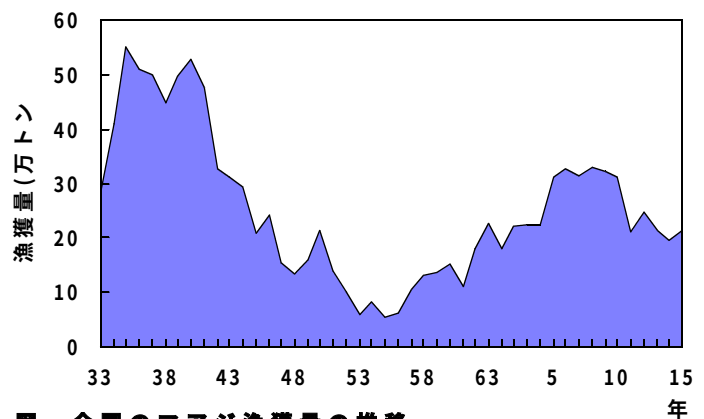


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成16年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖～阿久根沖（4～6月）、甕東・甕西（4～6月）に、薩南海域では、佐多岬沖（4～6月）に漁場が形成されました。

4港計では、豆・小アジ（平成15年生まれ）主体に1,220トンの水揚げで、前年の142%及び平年の104%でした。

3. 平成16年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ（0歳魚・平成16年生まれ）で、来遊量は前年を上回り、平年並みでしょう。

（根 拠）

西海区水産研究所の東シナ海稚魚分布調査（速報）から、主対象となる平成16年生まれ群の発生量は、前年を上回り、平年並みの水準と考えられます。また、平成16年6月月末現在のアジ仔の本県海域への加入状況もほぼ平年並みの水準であります。

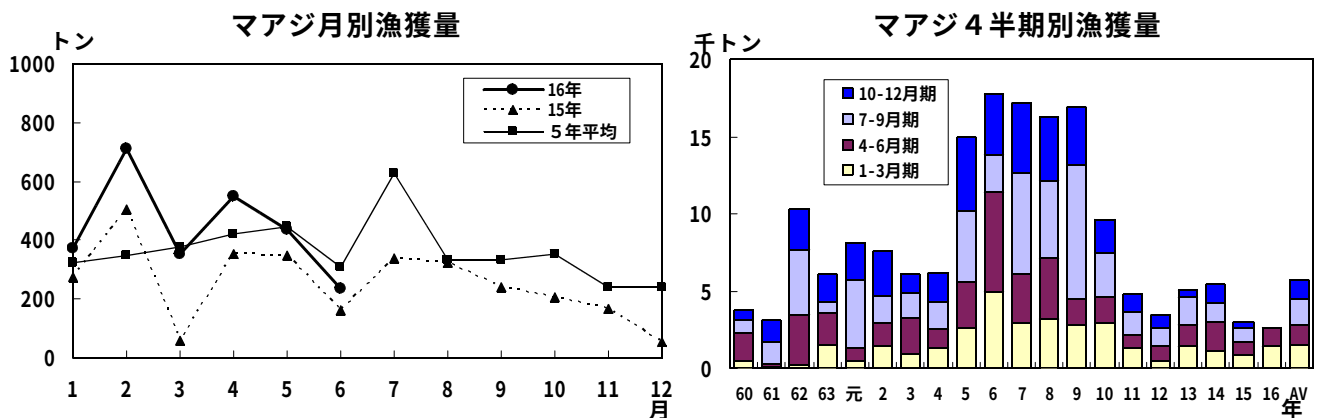


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年6月末までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンと増加しましたが、その後再び減少し、平成14年は27万9千トン、平成15年は34万4千トンでした。

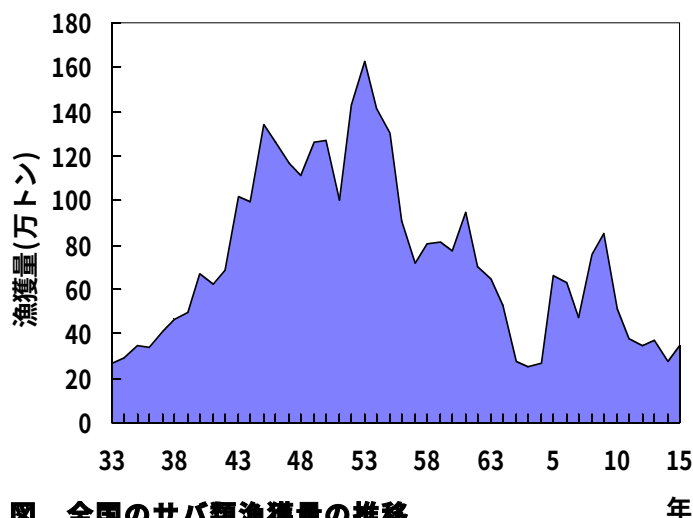


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成16年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

主に薩南海域で漁獲があり、ゴマサバ中・大（2歳以上）が馬毛島沖(4～6月)、種子島東(5月)に漁場が形成されました。

4港計では、ゴマサバ中・大(2歳以上)主体に1,474トンの水揚げで、前年の76%及び平年の63%でした。

3. 平成16年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ仔・豆(0歳魚・平成16年生まれ)及びゴマサバ中・大(2歳以上)で、来遊量は好調であった前年を下回り、平年を上回るでしょう。

（根 拠）

ゴマサバ中・大(2歳以上)の来遊量は高水準であります。また、ゴマサバ仔・豆(0歳魚)は、北薩海域の棒受網・まき網などへの混獲が多く、今後の漁獲加入が見込まれます。一方、前年多かったゴマサバ小(1歳魚)は来遊が少ないため、まとまった漁獲は期待できないでしょう。

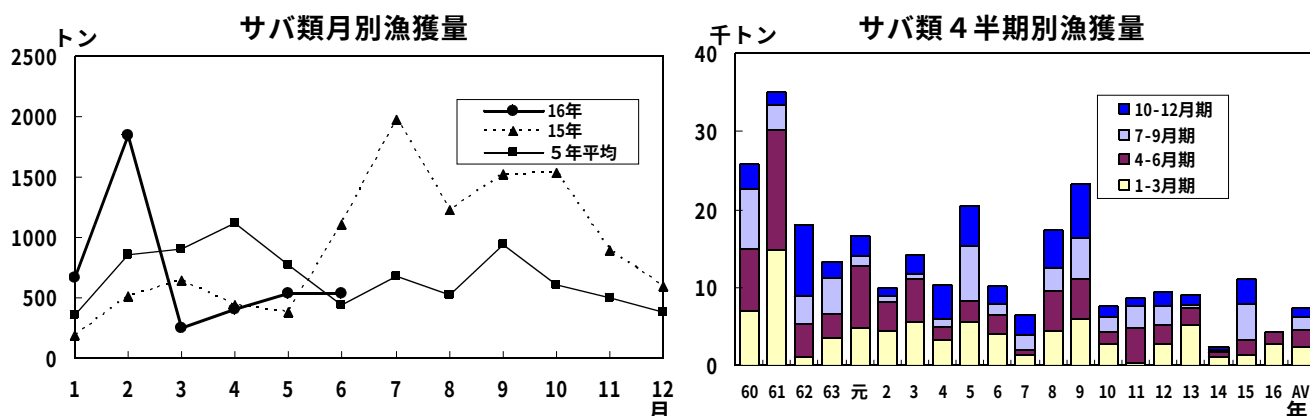


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値、平成16年6月末までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成15年は5万8千トンでした。

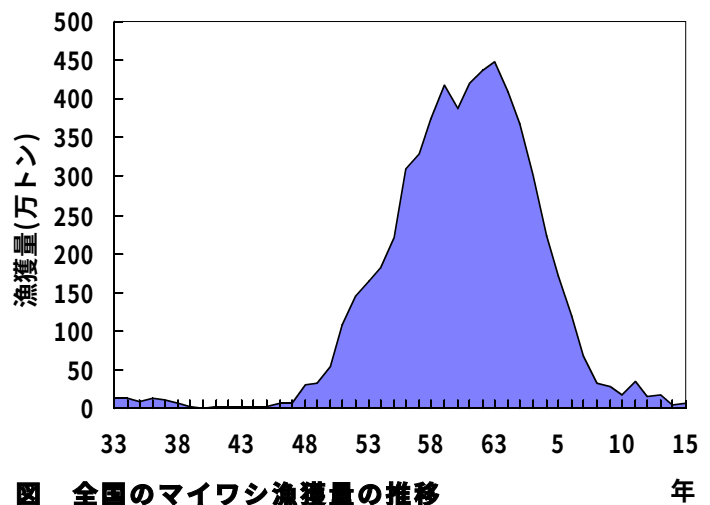


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 平成16年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

期間中まとまった漁獲はありませんでした。

3. 平成16年7～9月期の見とおし

来遊量は前年並みで、まとまった漁獲は期待できないでしょう。

（根 拠）

マイワシの資源状態は全国的に低水準にあり、前期の漁獲状況や平成16年3月に行った卵稚仔調査からも資源回復の兆候はみられませんでした。

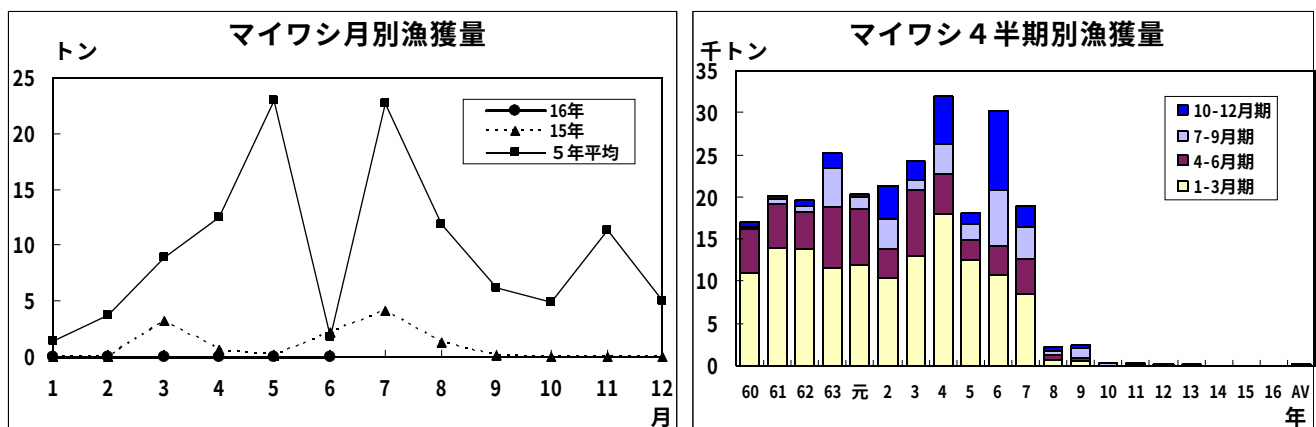


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※ 平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値、平成16年6月末までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後、増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成15年は3万トンでした。

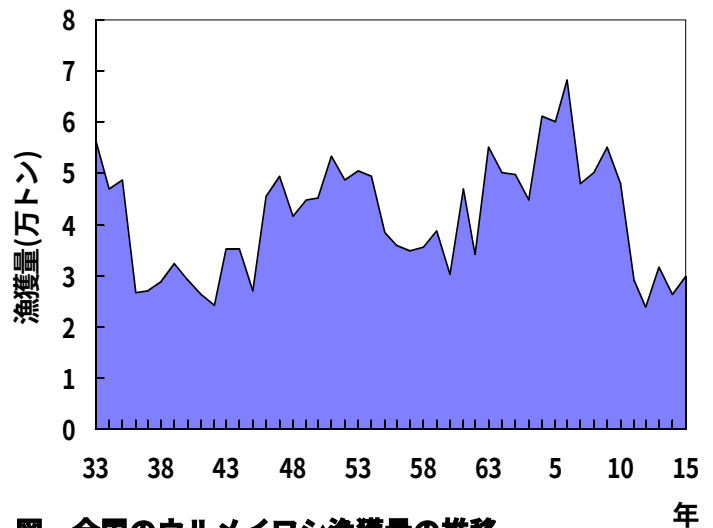


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成16年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

串木野沖で6月に小中羽(1歳魚)主体の漁獲がありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では、403トンの水揚げで、前年の167%及び平年の113%でした。

3. 平成16年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小中羽ウルメ(0歳魚・平成16年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

（根 拠）

前期に棒受網、まき網で小羽ウルメ(0歳魚・平成16年生まれ)がまとまって漁獲されており、当歳魚の発生量は、前年・平年を上回ると考えられます。

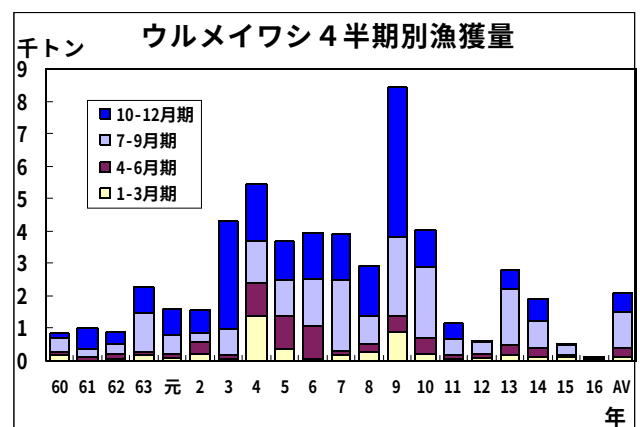
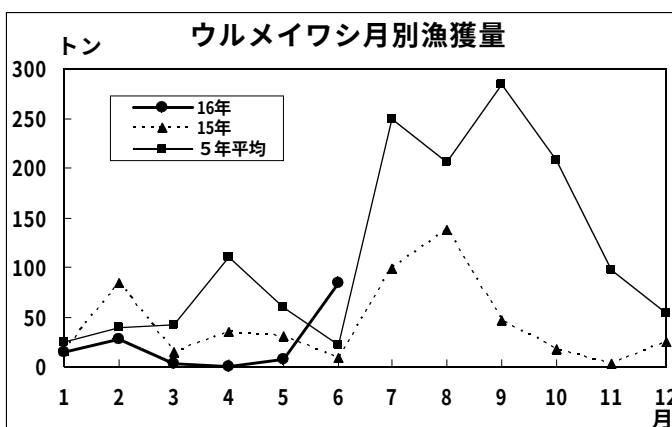


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年6月末までの水揚げ量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成11年は48万トンとなりました。平成13年は、30万トンと一時的に減少しましたが、平成14年は再び増加し44万トン、平成15年は過去最高の51万7千トンでした。

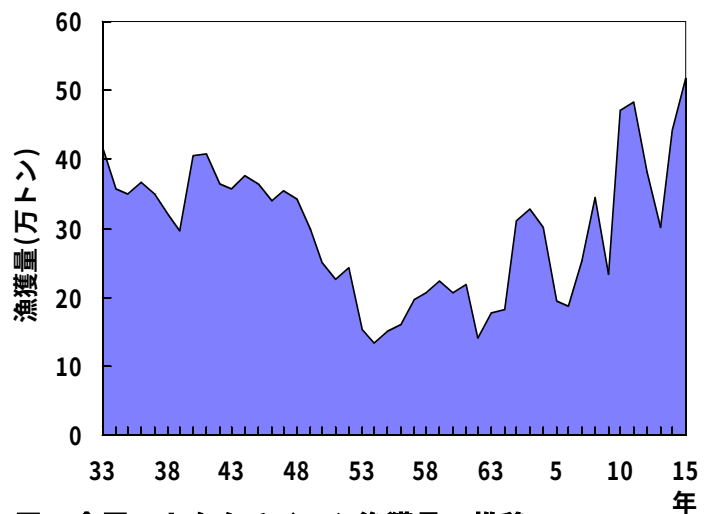


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成16年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

阿久根、長島沖で5～6月に小中羽主体の水揚げがありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では、445トンの水揚げで、前年の57%及び平年の80%でした。

3. 平成16年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小中羽カタクチ(0歳魚・平成16年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根 拠)

バッチ網漁業の前期漁況から主対象となる小中羽カタクチ(0歳魚・平成16年生まれ)の発生状況は、前年・平年を上回ると考えられます。

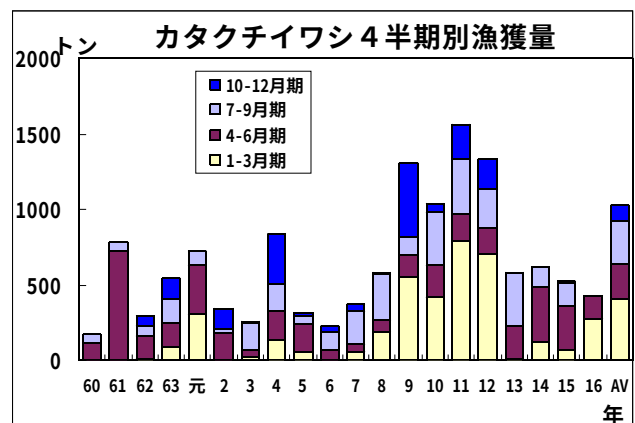
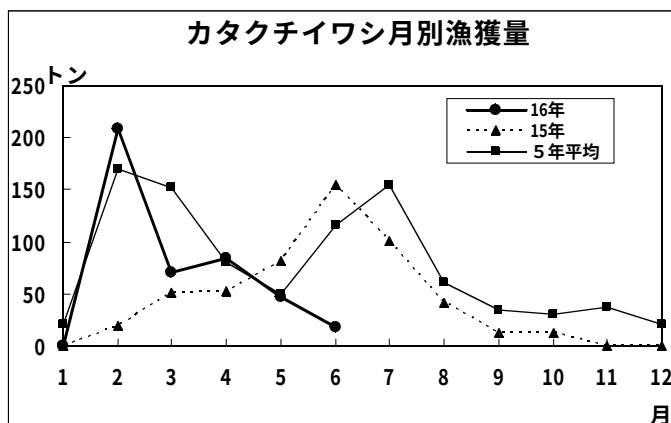


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値、平成16年6月末までの水揚量を使用。

【その他の魚種】

〈ムロアジ類（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降は増加し、平成13年は3,224トン、平成14年は4,418トン、平成15年は3,369トンとなりました。

平成16年4～6月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では59トンの水揚げで前年の27%及び平年の39%でした。

2. 平成16年7～9月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

〈オアカムロ（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後減少傾向となり、平成12年は2,483トン、平成13年は2,337トン、平成14年は1,885トン、平成15年は1,225トンでした。

平成16年4～6月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では892トンの水揚げで、前年の658%及び平年の296%でした。

2. 平成16年7～9月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

〈マルアジ（アオアジ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年4～6月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成12年は1,867トン、平成13年は1,603トン、平成14年は2,712トン、平成15年は3,150トンでした。

平成16年4～6月は、主に北薩海域で漁獲があり、期全体では87トンの水揚げで、前年の14%及び平年の25%でした。

2. 平成16年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、7～8月は中（2歳以上）、9月は豆（0歳魚）となるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

マルアジ小（1歳魚・平成15年産まれ）の来遊量が低水準であるため、漁況は低調に推移すると考えられます。

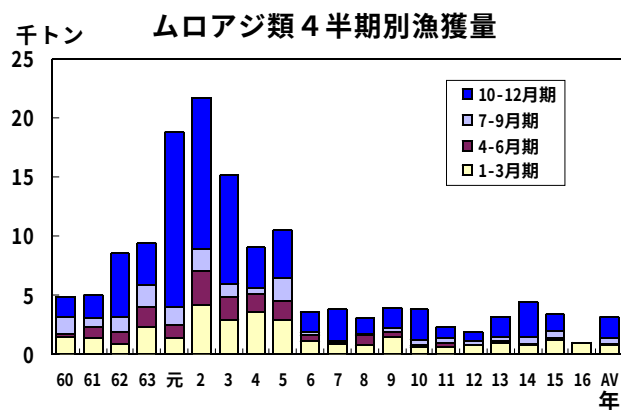
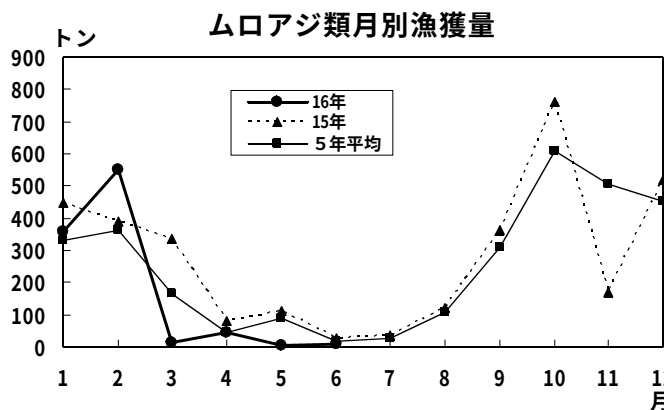


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

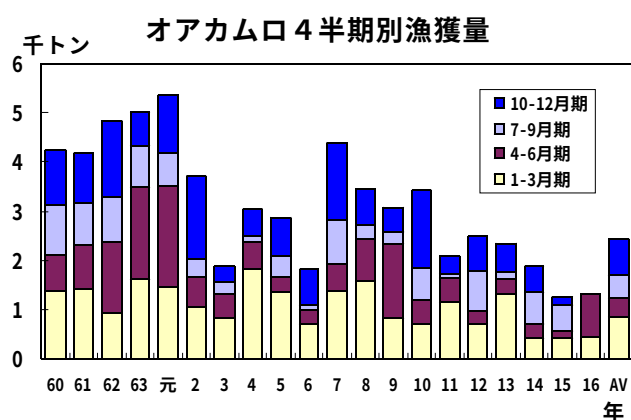
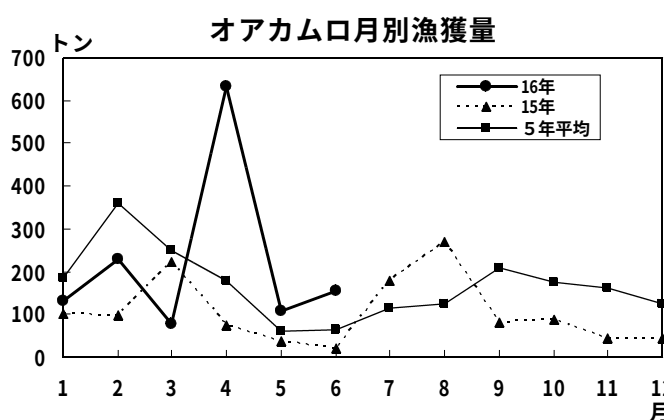


図 オアカムロ漁獲量変化(4港計)

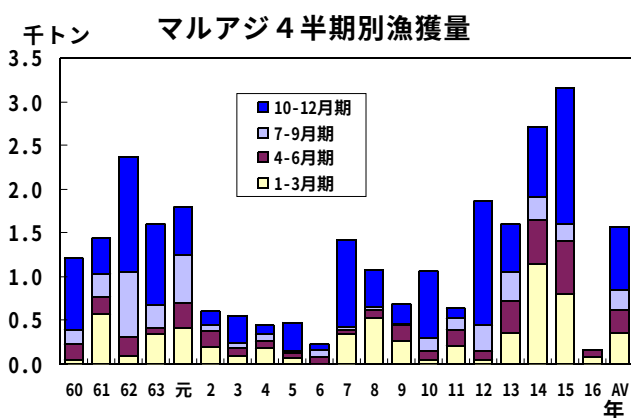
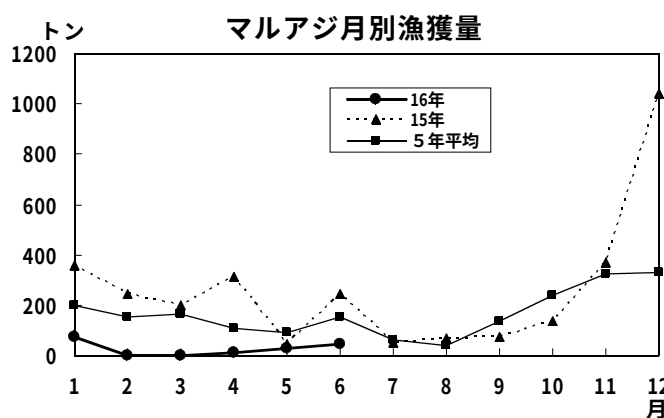


図 マルアジ (アオアジ) 漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成11~15年)の平均値, 平成16年6月末までの水揚量を使用。

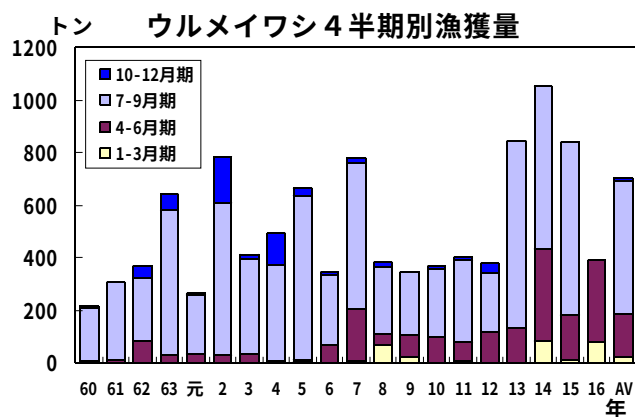
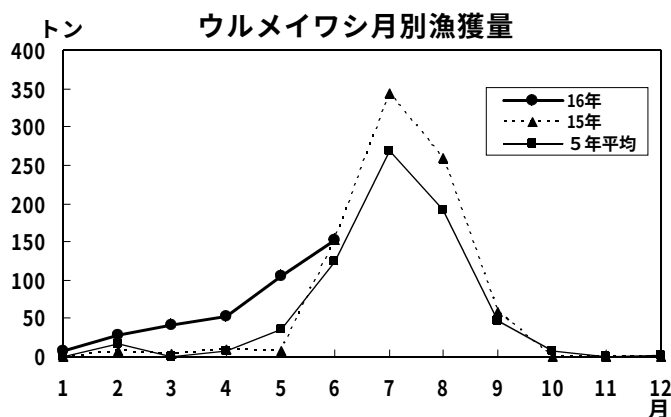


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

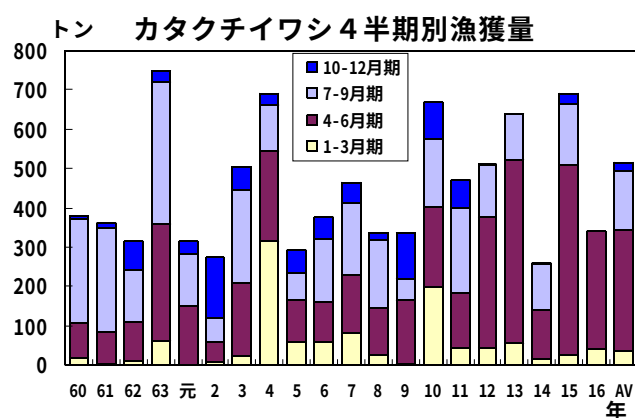
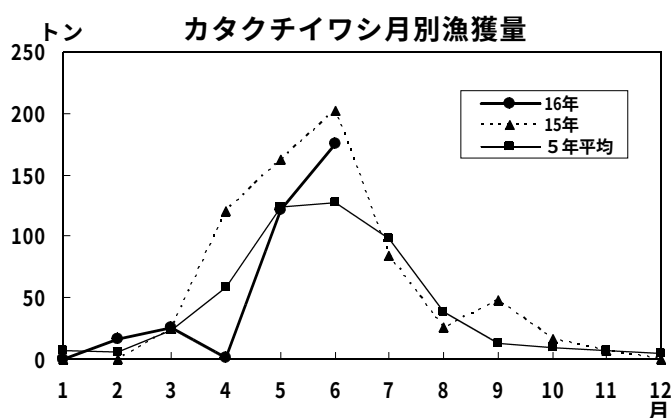


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

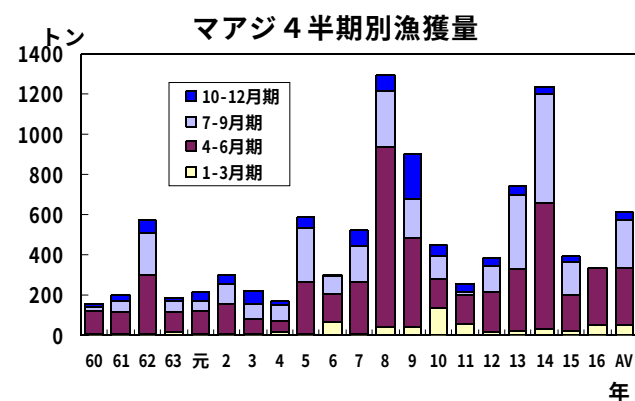
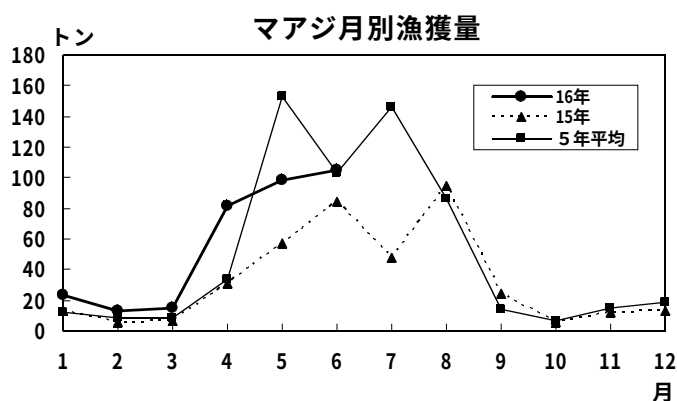


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

※ 平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年6月末までの水揚量を使用。